

## 日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。〔18番 田原 実君登壇〕

○18番（田原 実君）

おはようございます。田原 実です。

5月9日から12日までの新潟日報に、長期政権の今、糸魚川市長5期目折り返しの記事が特集されていました。その見出しとなりました、公平性、工事契約に厳しい視線、金額倍増、議会に説明なし。産科医不在、派遣元に確保を直訴、市外での出産、市民に不安。復興まちづくり、子育て施設議会で賛否、論点尽きず、2年後争点か。地域経済、地元就職激減に危機感、テレワーク拠点浸透を図る、の4つの項目は、市民の悩みである、大きな行政課題となっています。

さらに、今後の糸魚川の広域観光において必要となる大糸線についても、存続廃線決定の時期は待ったなしの状況となっています。

そういったことから、今回の質問の1は、私の議員活動の一丁目一番地であります地域医療の確保策と安心・安全な出産分娩について、市民からの声を聴き、準備しました。

その中で、市外の病院で出産することの大変な状況が分かったという市民から、議員全員で市内出産のこと、市民の命、糸魚川の未来についてを真剣に考えてほしい。議会会派の都合や政党云々ではなく、総がかりで解決に向けて一丸となって市長行政を動かしてほしい。それこそ、市民に選ばれた議員ではないかとの声があったことを議員各位にお伝えさせていただき、この後、質問いたします。

質問の2は、駅北子育て支援複合施設の計画には、塩尻市の施設「えんてらす」が参考になると以前より考えていたことから、塩尻市の知人に聞き、まとめた資料を担当課にお渡ししてありますので、それを基に質問いたします。

質問の3、大糸線の存続は、大糸線応援隊の方と意見交換させていただき、質問を準備しました。

さて、私の一般質問も平成15年の初議会から始めて、今回で80回目となります。胸にブルーリボンをつけ、今日も張り切って質問します。よろしく願いいたします。

1、市内出産ができなくなったことへの市民の声、ますます厳しくなる地域医療体制確保への対応と市長の責任。

(1) 糸魚川総合病院での分娩取扱い休止後の状況について、市内出産ができなくなったことへの市の対応について伺います。

(2) 市内出産ができなくなったことへの市民の声を聴いていますか。それはどのようなものですか伺います。

(3) 過去5年間の市内出生数の推移と糸魚川総合病院での出産の内訳、令和4年度の出生数の

分娩場所の内訳について伺います。

(4) 最近の糸魚川総合病院の広報誌まいほすびたるに「安心して糸魚川で産前・産後を過ごしてもらうために」として、黒部市民病院との連携や病院の助産師のコメントが掲載されています。これをどうサポートしていきますか伺います。

(5) 出産体制を構築し、安心してこどもを産み育てられるまちにするのは市長・行政の役割と責任です。それには市内出産について市民に「お知らせ」するだけでなく、市が医療フォーラムを主催し、市内出産についての市長の考えを市民に伝え、また市民の生の声を聴くべきです。市長のお考えを伺います。

## 2、（仮称）駅北子育て支援複合施設基本計画の問題点と市民合意について。

(1) この計画の進め方として、議会をスルーしてパブリックコメントを実施するなど、一方的な計画案の押しつけとも取れる行政対応となっていないですか。また、まちの中心部の計画地に施設をつくるのは復興計画の主題であったにぎわいづくりのためですが、これが子育て市民ニーズへの対応として目的がすり替えられていませんか。この進め方に問題はないか伺います。

(2) 建設事業費15億円、年間運営費5,000万円の計画とのことですが、被災者住民や市民が望む機能を備えた施設でなければ建設する意义がありません。よりよい計画とするには、新潟県燕市に2024年度オープン予定の「全天候型子ども遊戯施設」や、長野県塩尻市広丘支所「えんてらす」のように子育て、図書、交流の機能を複合させて多くの利用がある計画・設計・運営を参考にしていきたい。また、変形した敷地に無理に押し込んだ計画とせず、以前まちづくり市民会議で出された市民からの優れたアイデアも取り入れた全体計画として再検討していただきたい。市長のお考えを伺います。

(3) 「日本一の子どもをはぐくむ」と高らかに宣言した糸魚川市において子育て事業は最重要事項でありながら、施設運営を外部委託で済ませようとしています。当初は運営費がかかっても、まずは市直営とし、現場で課題解決の試行錯誤をすべきです。それをDBO方式で施設の設計・建設・運営を進めようとしたり、運営を指定管理で外注するのが米田市長の「日本一の子どもをはぐくむ」ことなのかと疑問を持ちます。市長のお考えを伺います。

## 3、大糸線沿線自治体との連携、JR西日本との協議と存続・廃線の決定時期について。

(1) 新聞記事で「存廃論議が浮上している大糸線の糸魚川－南小谷（小谷村）間を巡っては、JR西日本の担当者が『大糸線利用促進輸送強化期成同盟会』振興部会で自治体が線路などを維持管理する『上下分離方式』や第三セクターなどを念頭に事例研究を進めるよう求めている。」とありましたが、最近開催された大糸線活性化協議会では糸魚川市長、大町市長、小谷村長、白馬村長が挨拶等の中で、沿線自治体が連携して北陸新幹線の敦賀延伸を見据えて観光利用で乗車を増やすことに取り組んでいきたいと所見を述べられていたと思います。これはJR西日本と即廃線へ検討や協議をすることなく、あくまで鉄道で持続させていくとも取れるのですが、具体的にどうするのか、いつまでに何をすることがよく分からないという印象があり、現状を市民に対して説明いただきたいと思います。

(2) JRが大糸線を存続させる条件として、例えば乗車数などはどのようなものですか。また、そのためにJRはどのような努力をしていますか伺います。

(3) 沿線2市2村は大糸線存続のための観光連携をどのように進めていますか。また、その組織体制はどのようになっていますか伺います。

(4) 会員数約3,000名の大糸線応援隊をどのように活用していきますか。単にフォーラムやイベントへの参加を促すだけでなく、JRに経営努力を求めるような知恵やアイデアを出していただくべきだと思います。いかがですか、伺います。

以上、通告書に基づく1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田原 実議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、糸魚川総合病院及び県と連携した医師確保に取り組むとともに、分娩が再開されるまでの間は、庁内で連携し、妊婦支援等に取り組んでまいります。

2点目につきましては、産む病院が遠くなり、陣痛後の移動の際の心配や出産した方からは、妊婦情報事前登録制度の創設などにより、万が一に備えた準備ができ、よかったなどの声をお聞きいたしております。

3点目につきましては、平成30年度から5年間の市内出生数は減少傾向で、糸魚川総合病院での分娩割合は、5割前後となっております。

令和4年度の分娩場所の内訳は、糸魚川総合病院が約47%、上越市内約32%。上越市を除く県内約7%、富山県内約10%、富山県を除く県外が約4%となっております。

4点目につきましては、糸魚川総合病院と黒部市民病院は、周産期医療連携体制が整っており、支援してまいります。

5点目につきましては、7月に糸魚川総合病院と連携した地域医療フォーラムを計画しており、周産期医療の現状や妊産婦支援制度に関する講演等を計画いたしております。

2番目の1点目につきましては、平成29年8月に策定した駅北復興まちづくり計画において、当初から子育て相談等の暮らしを支える公共的サービス機能を導入した、にぎわいの拠点施設として位置づけられております。これまで被災者関係者説明会や市民会議、駅北まちづくり会議の協議、市議会特別委員会の審議等を経て、約6年の時間をかけて進めてきたものであります。

2点目につきましては、地域住民や関係者等による懇談会を重ねてきており、可能な提案については、計画に反映しております。

3点目につきましては、行政の取組だけでは日本一の子供を育むことにつながるとは考えておらず、お互いのノウハウを持ち寄り、公民連携で取り組むことにより実現につながっていくものと考えております。

3番目の1点目につきましては、存続についての条件等は示されておませんが、北陸新幹線の敦賀延伸やコロナ禍の収束によるインバウンドの拡大という機会を最大限活用して、今後も沿線地域やJR西日本と一体となって、大糸線の利用促進に取り組んでまいります。

2点目につきましては、JR西日本は1日当たりの輸送密度が2,000人以下の路線について、大量輸送や環境に優しいといった鉄道の特性が発揮できない路線として収支状況を公表しており、

沿線地域との具体的な交通体系の議論を求めています。

一方で、JRは、コロナ禍により利用者が減少している中においても減便をせずに運行していることや大糸線活性化協議会の一員として共に活性化に取り組んでいただいております。

3点目につきましては、沿線の自治体等で組織する大糸線活性化協議会や北アルプス日本海広域観光連携会議において、企画列車の運行やサイクルトレイン等の事業に取り組んでおります。

4点目につきましては、今後もメールやファンミーティング等を通じて、様々なご意見を頂くことで、応援隊の目的である大糸線の利用促進と知名度向上に向けた一体感のある活動につなげてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市内出産ができなくなったことへの対応について、2回目の質問です。

市の対応において、今何が一番の課題となっているか、詳細を担当課に伺います。

先日の伊藤 麗議員の一般質問では、市外の病院へ自家用車で向かう途中、車中で出産した例があったと報告されました。市は、個人情報保護で詳細は明らかにできないとしていますが、心配な事例です。糸魚川市が様々な事例を想定し、きめ細やかに妊婦さんへの対応をしているか、担当課に聞きます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

おはようございます。

妊産婦の方とは妊娠届出の面談以降、伴走型の支援など、きめ細やかな相談を行っているところでございます。そういった日頃の母子保健活動の中で、保健師や助産師が妊娠・出産に関しますご不安や様々な事例を把握し、支援しておりますが、今後も妊産婦の方に寄り添ったきめ細やかな対応ができるよう、支援体制につきましても検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

もうちょっと具体例を紹介してほしかったですね。

行政内部の連携は密なのか、出産ができる病院との確かな連携があるか。何よりも市民の不安は払拭されているとお考えですか、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

おはようございます。

産婦人科の確保につきましては健康増進課、それから産前産後ケア、それから妊産婦支援、これについてはこども課、緊急対応、救急対応については消防本部と、それぞれの役割分担を基に糸魚川総合病院と情報共有をしながら、連携して取組を進めておるところであります。

それから、黒部市民病院と妊婦さんの妊娠・分娩を安心・安全にサポートできる周産期医療体制が今現在構築をされております。そのほか、上越地域のほかの病院、あるいはクリニックともこういう周産期医療の連携、調整体制を構築していきたいということで、今、糸魚川総合病院のほうでその準備を進めていただいております。

それから、不安の払拭の関係ですが、分娩が再開できるまでの間は安心して妊娠出産を迎えていただけるよう、先ほどのこども課のほうの事業になりますけども、交通費、宿泊費助成、あるいは妊婦情報の事前登録制度により、不安の解消に努めております。7月に予定をしております地域医療フォーラムなどで、こういう様々な市の取組制度は、周知を図っていききたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

過去5年間の市内出生数の推移と糸魚川総合病院での出産の内訳、令和4年度の出生数の分娩場所の内訳について、先ほど市長より概略をご説明いただきました。担当課では、それをどのように分析していますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

出生数につきましては、ここ5年減少傾向でございまして、そういった中でも糸魚川総合病院での分娩の割合につきましては、5割前後を維持をしてきたところでございます。こちらにつきましては、市内産婦人科利用促進プロジェクト事業というのを市で実施をしておりますが、そういったものの効果というものが出てきたものだというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川総合病院の安心して糸魚川で産前産後を過ごしてもらうために、の取組について、また、黒部市民病院との連携や病院の助産師の働きへの行政からのサポートについて、担当課より詳細に説明をいただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川市で安全・安心に妊婦さんから妊娠・分娩をしていただくために、糸魚川総合病院では、今、助産師を中心とした産前産後ケアに今力を入れようとしております。

それから、黒部市民病院との連携であります。先ほどもお話をさせていただいたように、周産期医療の連携体制が今構築をされております。今後の利用状況を確認しながら、糸魚川総合病院と意見交換に努めながら、必要な支援については検討してまいりたいというふうに考えております。

それから、助産師さんの活躍の場につきましては、今、糸魚川総合病院で分娩に関わることができませんけれども、先ほどお話しさせていただいたように、糸魚川総合病院では産前産後ケアに力を入れたいということで今取組を進めております。これは、市民の不安の解消につながるものでないかなというふうに考えておりますので、今後も妊婦さんがどのような環境を望むのか、あるいは助産師がそれにどのように関わるのか、これらを踏まえながら必要な支援を行ってまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ご答弁は大変結構でございます。必要な支援といったところを市内だけで考えてるんじゃないかというところを心配しますよね。

出産経験のある市民からは、産前のサポートをもっと手厚くすべきだとの声を聞いています。この方は、市外で緊急搬送されて手術し、出産されたそうで、これからも起こり得ることなので、これをまれなケースとせず、母子の安全・安心を守ってほしいと訴えておられます。また、早産を経験した者からすると、市の対応、考えは甘いと感じておられる。出産への異変は、妊婦自身で判断できないこともあり、マンツーマン的な助産師などがいてくれると心強い。自分の場合は、助産師の存在がありがたかったとお話を伺いました。

市の対応はどうなっているか、今後、強化策を考え、進めるつもりはあるか。繰り返すようですが、いま一度伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

先ほども少しお話をさせていただきましたが、妊娠届出の面談以降、伴走型の支援というのを実施してきております。日頃の母子保健活動の中で、専門職であります保健師、また助産師が妊娠・出産に関する相談を受けているところでございます。

妊娠から出産までにつきましては、個人によってそれぞれ異なることがあるため、今後も皆さん

のご意見を頂きながら、より寄り添った対応を進め、少し不安があったらすぐに相談でき、また、気兼ねなく相談できて、安心して出産が迎えられるよう改善すべき点が、対応してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

そのサポートしてくれる助産師さんというのは、どこに何人くらいいらっしゃるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

糸魚川総合病院には、年度当初、令和5年度当初11名の助産師の方がおられるというふうに把握をしております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

教育委員会のこども課のほうにも助産師が1名、また市役所ではないんですが、市民の方の助産師資格をお持ちの方が2名ほどいらっしゃいまして、そちらの方が、それぞれ妊産婦等の相談、また訪問等、また悩み事の相談に対応してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

助産師のマンツーマン的なサポートが妊婦さんを助けてくれるということですから、市内にできるだけ助産師を増やし、退職した助産師がおられればカムバックしていただき、スマホのLINEを使ったものでもよいので、妊婦さんの相談先になってもらいたいと思います。

医療構想の中でも、このようにスマホとLINEを使ったサポートというのがありますので、これを妊婦さん向けに市が対応していく、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今、スマホ等を使ったICTというのが、やはり24時間365日、またどこにいてもということで、妊産婦の方、また我々市民にとっても使いやすいツールであるというふうに考えております。

LINE等での相談等につきましても、先進事例等があったり、そういうところも研究してまいりたいと考えておりますし、それ以外、LINE等を使わなくても声で自分の悩み等を訴えたいといった部分につきましても、電話相談、また面談等、様々な手法で悩み等の課題解決に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

様々な手法を準備して、ハードルを低くということが大事だと思うんですね。

私が聞いた話は、妊婦さんが、緊急時、医師に連絡したり救急搬送を要請するのは非常にハードルが高く、これも助産師のサポートがあるとありがたいということです。ですから助産師さんと、それからスマホのアプリ、そういったものでハードルを低くしてサポートしてあげてほしいと思います。すぐにでも取り組んでいただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

これまでも相談しやすい体制というのは努めてきたところでございます。今ほど議員のほうからそういった事例もあったということでお聞きしましたので、まずは妊娠届の際の面談というのが最初のスタートになるかと思っておりますので、そういったところで信頼関係等を築く中で、またリラックスしたムードで相談ができるような体制づくりに努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

妊娠から出産、子育てまでずっとこのアプリでつながっていく、その安心感とか使いやすさというのはあると思うんです。よろしく願いいたします。

では次、今後、医師の働き方改革で拠点病院に専門の診療科が集約化されることへの対応として、早いアクセスと安全なサポートを進める以外に今打つ手はないという状況。正直、すぐに産科医を糸魚川総合病院に確保することは困難と考えます。

ただ、この状況の中でも行政は、医師会や病院と連携して、安心と安全につながる医療体制を市民に示すことができているかが問われていると思います。この点いかがですか。担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

地域医療につきましては、今、田原議員ご指摘のように、県でも地域医療構想を進めております。

それは医師の働き方改革ももちろんですけども、少子高齢化があつて、医療需要も大きく変化してきておるといふようなこと、また医療人材も大きく不足しておるといふことであります。それが1つの大きな現象として現れたのが、この産婦人科の問題だといふふうに考えております。

糸魚川市におきましても、産婦人科はもちろんなんですが、その他の診療科目、あるいは個人のクリニックの先生方の高齢化が今後進むことが想定をされております。そうなりますと、かかりつけ医も減少していきますので、じゃあそれに対してどういう手を今から打つべきなのかといふことについては、保健所を含めた行政、それから糸魚川総合病院、医師会と、今年度から話合いの場を持ちながら、今現状の分析を進めつつあります。これについては、できるだけ早く見通しを立てて、そして取り組んでいきたいと思っております。また必要に応じて、議会の皆さんにも説明しなければならないといふふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

よろしく願いいたします。

では、緊急搬送についてお尋ねします。

昨日の一般質問で、ヒヤリハットの話が出ました。ヒヤリハットとは、重大な災害や事故までは至らないけれども、それに直結してもおかしくない一歩手前の出来事を発見することだとネットの解説にあります。糸魚川市で出産における緊急搬送中のヒヤリハットを考えて事故防止をするのは、行政の役割と責任です。その対応を担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

竹田消防長。〔消防長 竹田健一君登壇〕

○消防長（竹田健一君）

おはようございます。

お答えいたします。

今消防本部のほうでは、2月と4月ですか、妊産婦等の研修を実施しておりますが、これは今、田原議員おっしゃったヒヤリハットのさらに前、つまり妊産婦の救急搬送の事例が少ないものから、そういったことで救急隊員、あるいは救急救命士が、救急車内で万が一に備えて適切な処置ができるよう研修しておりますし、引き続き計画的に研修を重ねていきたいといふふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

以下、市民の声を幾つか紹介しますので、ご答弁いただきたいと思います。

出産の兆候があり、上越の病院へ行ったが、まだ生まれないから家へ戻ってと言われた。そのと

き、たまたま用事で上越にとどまっていた、急に出産という状況になり、無事出産できたが、もしすぐに糸魚川へ戻っていたら、もし運転する者が酒でも飲んでしまったら、もしタクシーの中で出産したらと考えた。タクシーの中での出産となったら、運転手さんはまともに運転できるだろうか。タクシーに委ねるという時点で、行政の意識というものに疑問を持ってしまった。産まれた子が亡くなったら、タクシーの運転手さんが責任を取るのか。そうなれば、糸魚川市は何をやっているんだということになる。あるいは自分で運転して病院へ行く場合に、思わずスピード違反をした場合、事故を起こした場合を行政は考えているのだろうか。市外での出産はリスクが大きいことを、家族の出産を通じて気づいたという、もしもを考え、心配する声に対して、井川副市長、ご答弁いただけますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

おはようございます。

お答えいたします。

出産に際しては、いろんなリスクが考えられます。今ほどご紹介いただきました事例は、本当に私たちも、何ていうかな、真剣にやはり捉えて対応しなければいけないというふうに思っています。今現状では、やはりそのタクシー利用というのももちろんあるんですけども、市外での宿泊費助成ですか、そういった形で早めに動いていただくことで進めておりますが、それ以外でも先ほど出ておりました救急車の要請がなかなかしにくいという事例もございます。そこについては、やはり私たちが緊急時は救急車を呼んでいただくような体制もしっかり妊婦さんには周知していきたいというふうに思っていますし、今頂きましたご意見全体を踏まえまして、改めて今後の出産の在り方については、庁内でしっかり検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

次に、産科がなくなり、医療がなくなることがクローズアップされていないのではないか。行政もそこを見て、あまり動かないのではないか。今の体制を1年間やってみて、何もなかった、よかったという話ではない。問題や事件が起きて、クローズアップされてから動くのではなく、事件が起きないうちに動いてほしい。まさかの事態で出産に支障や事故があったときは、その責任は誰が取る。自己責任でしかないのか。市はレアケースを検討したのか。庁内会議で突っ込んだ話をしたのか。それができない組織なら、それは市長の問題だが、市長は責任の問題をどう考えているかとの市民の声があります。市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、議員ご指摘の点については、私は重々そのように受け止めております。そのようなことから、非常に産科の医師の確保、そしてまた、この地域医療に関しては、私は最前線で取り組んできたと思っております。他の県内の自治体に先駆けて、いろいろなことを取り組んできたのも、やはりそういった非常に危うい地域医療の現状が見えておるからであるわけでございます。ご承知のとおり姫川病院が閉院という形になったときから、そういった環境もあるということは、我々は、糸魚川市は感じておるわけでありまして、そのような対応の中で、いろんな制度や、そしてまた我々は地域医療に対しての対応を行ってきておりますし、県に対しても連携を取りながら、そういったところを情報提供しながら、対応をお願いをしている状況でございます。

また、厚生連病院等においても同じ状況でございます。厚生連病院のネットワークを生かしながら、この診療科目の確保、そしてまた今一番最初、私は、危機を持っておる産科についても、そのような状況であるわけでありまして。

他の診療科目においても全く同じであるわけでございます。人口減少、そして高齢化の中において、いろんな事柄が起きてくる中において、市民の安心・安全を第一に考えるのは、地域医療だろうと思っておりますので、引き続きこの考え方を最前線に置きながら、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

行政組織と市長の責任はどうかと市民は聞いてるんですよ。そこをお答えいただけてない。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

要するに行政の中においても、そういった地域医療については責任はあるという形の中で、行動、活動、また施策の中で取り上げておるわけでありまして。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市長の責任はどうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

市長個人という形ではなくて、やはり行政の責任として、そして行政の最高責任者は市長でございますので、当然、市長としての責任もあるわけであります。これは市全体の責任として捉えてる中での状況であると思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

次は、女性市民の声です。

経済的な負担も考えてほしい。糸魚川で出産できれば済むものが、上越へ行く時間、高速料金、ガソリン代などの費用だけでも大変だ。最近、娘が都会から帰ってきたが、上越に住むことにしたと言われ、親としては切ない。糸魚川には住めないと、若い世代の市外流出と人口減少に拍車がかかるのではないかと心配している。人を残し、増やさなければ、出産、医療の問題は解決しない。都会から戻ってこようという子供たちがいる今のうちに、市内出産できないことや診療料が減ることに市民が関心を持ち、糸魚川で子供を産み、育てる夢を語れるように、市民の意識を変えていくことが大切と思うとのご意見を頂いております。この声を聴いて、どう思われましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

これまでもいろいろお話をさせていただいておりますように、地域医療については、本当にぎりぎりの状況で、現在の体制を維持しておるといふふうに理解をしております。これは、決して行政と糸魚川総合病院と医師会だけの問題でなくて、やはり市民お一人お一人がそういう気持ちに根ざした上、いろんな具体的な活動ということではないんですけども、やはりそういう地域医療に対して関心を持っていただく、またあるいは声を出していただくということも大事ですので、行政としましては、いろんな形での地域医療に関する情報提供に努めながら、市民総ぐるみで何か取組を進めればなというふうに感じております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

この女性市民の声、今のうちに糸魚川で産み、育てる夢を語れるようにというこの言葉に、私は明日の光明を見いだす思いです。市民と一緒にこの状況を好転させ、医療を守り、市民を守る、その決意を持って米田市長に伺いますが、医療フォーラムにおいて、市民と共に糸魚川で産み、育てる夢を語れる医療のまちを目指しませんか。市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に前向きな提案であるわけでありますが、しかし、現状をまず知っていただくことが先かと思っております。現状を把握することによって、そしてその打開策、そしてまた、それから先のことを語っていきけるような形に持っていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

ちょっと答弁おかしくないですか。私は、現状をもっと市民に伝えてくれというところから、今の話になってるんですよ。市民が現状まだよく分かっていない、不安だというところをまずどうしますかという話じゃないですか。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ですから、現状をしっかりと知っていただくことが、まず先ということをお話をさせていただいておりますので、何ら変わってないと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

7月のフォーラムは、どのくらいの規模でやられるか。また前回の医療フォーラムのように、質疑の時間を避けてしまうような、そういうフォーラムだったらやる意味ないですよ。課長いかがですか、どのように運営されますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

池田健康増進課長。〔健康増進課長 池田 隆君登壇〕

○健康増進課長（池田 隆君）

今回の地域医療フォーラムについては、7月に計画をしております。周産期医療の現状と取組について、市民から知っていただく。またあるいは市で取り組んでおる事業・政策についても、市民の皆さんから承知いただくような、そんな取組にしたいと思っております。

規模については、市としてもできるだけ広くPRをしておるんですが、なかなか関心を持っていただいて、出席していただく方は少なく、多いときで250人ぐらいであります。今回についても、できるだけ広く周知をしながら、より多くの人から参加していただきたいと思っております。

それから、質疑の関係であります。市民の皆さんから、あらかじめ疑問な点、不明な点をお聞かせいただいて、それについて、市、それから糸魚川総合病院がお答えをするというような形で今

考えておるところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今日は私も一般質問の中で、事例や市民の声をお届けしました。ぜひ参考にさせていただきたい。お願いします。

では、質問の2、子育て支援複合施設基本計画の2回目の質問です。

議会をスルーして、パブリックコメントを実施するなど、一方的な計画案の押しつけとも取れる対応となっていないか。にぎわいづくりの施設建設計画が、子育てへの対応へと目的がすり替えられていないか。この進め方に問題はなかったかというところ、被災者、住民、近隣商業者の声を聴いていますか。行政から話を聞いたという話を私は聞かないが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

パブリックコメントを議会の前にやってしまったということに関しては、前回同様、今回もそれは、してはいけないことをしてしまったということで大いに反省しております。

それで、住民の意見を聴いてこない、住民の望まれるという部分に関して、私ども、つもりだったでは困るということになると思いますけど、かなり丁寧にやってまいりました。その自負はございます。

ただ、いろいろ振り返って、反省というかどうかというところに引っかかる点があったのかなというふうに自分なりに考えています。市民会議、まちづくり会議から始まって、子育てとかいうところの部分というのは、市のほうで固まって、あと何がいいですかみたいな感じで、市民の方に何かその辺が伝わってしまったのじゃないかなっていうところもあります。あそこのにぎわいを呼ぶ、人を呼ぶ施設として、子育てのこういう部分がある。そのため、こういう組み合わせで人を呼びたいんだというその根っこの部分というのを軽く語って、どういう機能がいいでしょうかというような部分をやってきたという反省はございます。

ただ、それにしても皆さんから寄せられたご意見・ご要望の多くは、できる限りにおいて、この基本計画の修正案に反映してきたというふうに考えております。パブリックコメントで多くの意見を頂いたことも、これから議会のほうにご意見をいろいろ聞きながら、たたき台として議論を深めていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

私の質問は、パブリックコメントの後、近隣住民、被災者に話を聴きましたかという、そういう質問なんです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

パブリックコメントの後に公式に地元に出向いて、市役所、そのパブリックコメントについての説明等のそういうコンタクトは、今のところまだ取っておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

パブリックコメントの後、私は何人かの近隣住民のご意見を伺いました。厳しいご意見から紹介しますれば、子育て施設の未来が見えない。にぎわいの核となる計画が頓挫し、子育てへと変更したが、完成したときから子供が減り、にぎわいが減少するものをなぜ造るのか。継続的なにぎわいをどのようにつくるのか。キターレの活用と連携はあるのかという基本的な話です。

別の方からは、施設に子育て機能があることには反対しない。建設費がかかっても、よいものにしてほしい。ただ、そのよいものというのは、地元の声や要望を入れたものだという、これも基本的な話です。

パブリックコメントをアリバイとせず、本当の意味での近隣住民との合意形成を進めて、計画、建設を進めてほしいですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

あの場所に造る限りは、地元の人に利用していただけて、かわいがっていただけて、喜んでもらえるような施設を造るということは、ご質問にもありましたが、そこは市も常に考えております。地元のご要望の中で、どうしても実現できなかった項目はありますが、これからも地元との話の中では、企画の部分がこれから大事になっていくので、そういう部分から地元も参画して、地元にとってもいい施設になるようなつくり方から進めてもらえんかというようなありがたいご意見を頂いております。地元にお任せ、丸投げという気持ちはないですが、そういうどんどん地元の声を聴いて、これからの計画の煮詰めの作業をしていきたいというふうに今、私どもは考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

言ってることとやってることが違う。地元という言葉を使いましたよね。地元、じゃあどのようにして説明に行くのかです。仮にDBO方式でやってしまったら、もう聴けないですよ、地元から。市はそういう進め方をしようとしてるわけ。運営も指定管理でやろうとしてるわけです、DBOが駄目ならね。そうすると、地元の声というのは、そこで反映できるんでしょうか。今が一番大事なんです、この企画の段階の今が。どのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

まさしくおっしゃるとおりだと思います。できてしまってからとか、おおむね市役所のほうでアウトライン全て固めてから意見を聴いても、今さら聞かれてもという空気はつくってはいけないと思います。

ですので、例えばどういう方式になるか、まだ私どもはDBOということをご提案をしていますが、どういう運営方式になるかにかかわらず、その運営者の選定の段階から地元に入りたいということで、私どももぜひそれをお願いしたいというふうに考えておきまして、そこについても地元の声というのをいろいろ聴いて、これからも取り組んでいく、そのスタンスは変わっていないと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

スタンスが変わってないじゃなくて、地元の声を計画や運営にどのように入れてくかといったときに、最初に運営者を決めたいという話を、まず地元で納得してもらおうというところからもうずれてるんですよ。市が、まず企画を地元で持って行って、よく説明して、どのようにしていくかということ、まず納得がないといけないんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

あまり細かいところにこだわるべきではないかもしれませんが、運営方法については、その手法について地元と議論をしたことはあまりないです。私どもから説明をしたぐらいで、議会に対

しても、まだご理解をいただけていない状況だというふうに私どもは捉えております。私どもが提案したDBO方式、それがお認めいただけるかどうかというところが強いかと思えます。

もう一個、何でその方式が好ましいかということも、議会の皆様、市民の皆様、地元の皆様に、私どもの考える好ましい理由というの、丁寧に説明させていただきたいと思えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

好ましくない方法だって言ってるんじゃないですか。まだそれを続けられるんですかね、かたくなですね、課長は。もうちょっと柔軟に考えていかないと、地元の声なんか聴けないですよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

かたくなといいますか、基本計画でああいうふうに提案をさせていただいておりますので、まず、それについてのメリット、利点を、ほかの制度よりよいのだというふうに説明させていただくことは、基本計画の案をつくった部分の責任かと思えます。皆さんの総意として、それが好ましくない、指定管理、直営ということになれば、それが市民の皆様の声ということで、市のほうは当然それで進めてまいりますけど、今は案を提案した時点としては、その利点ということを皆様にお伝えすべきだというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

担当課に資料を渡してありますが、塩尻市「えんてらす」子育て、図書、交流の機能を複合させて、多くの利用がある計画、設計、運営について、また4年で50万人の入館者数を達成したことについて、担当課はどう分析していますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

資料の提供ありがとうございました。

私も、頂いてからホームページ等で建物のパースというんでしょうか、そういったものを見せていただいて、イメージをしたところでございます。

そういった中、塩尻市の「えんてらす」につきましては、子供を中心とした地域コミュニティの

形成を目指しており、子育て支援センターの機能だけでなく、図書館、また公民館等の機能も備えていることから、利用者数が多くなっているというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

塩尻市の関係者に聞けば「えんてらす」の利用が多くにぎわっている大きな要因は、支所、公民館、子育ての機能と合わせて図書館があるためで、令和4年度の図書館利用者は、全体の中の38%、オープン当初は50%であったと。図書館には人を呼び込む力があるが、単独機能だと一過性になる傾向がある。ほかの用途やイベントとの相乗効果で来館者が増えれば、さらなる行政サービスができる施設となることを私は聞いて確認してあります。このことは、糸魚川市の計画でも言えることではないですか。市の考えを確認させてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

図書館、図書機能に関しては、当初の早い段階から、議員からもご提案をいただいていた部分でございますし、私どもも、広い世代の方、地元の方に喜んでご利用いただける機能としては、そういう図書というものは欠かせない機能かと思えます。今いろんな機能がそこに取り込まれたというようなお話もありますが、例えば子育て支援の関係と図書の関係、それによって人が集まったときに、こういう部分に使えればよかったというような、そういう何かスペースというんですかね、そういう部分がある程度確保、事前に確保していくということも、がちがちに固めるというよりは、そういう図書の機能も含めた集客を生かすためのスペースというのも事前に確保しておかなきゃいけないのかなということで、議員から頂いた資料によって、私はそういうふうに考えたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

「えんてらす」のサイトに掲載されている施設に人を呼び込む3要素をご紹介します、担当課の考えを伺います。

一つには、日常性で、ふだん使いとして何げなく立ち寄れること。一つには、波及性として情報発信があること。そして、継続性として、地域文化の伝承なども含むというこの3つで、この要素をハードとして具現化したのが、「えんてらす」の設計の特徴である自由に使える交流スペースです。また、ソフトとして具現化したのが、直営での運営、職員さんの市民と関わる力、感性の高さであると私は考えています。

「えんてらす」の専用ホームページに、3Dの建物ガイドや情報があります。参考にして、糸魚川の施設の設計と運営を考えるべきと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

日常使い、子育て世代だけではなくて広い多世代の方からご利用いただけるという部分、あと発信の部分、まだそこまで私どもの仕事至っていないです。地域の文化というところでは、御風さんにまつわる部分を少しスポット化して、成果のほうに導いていた。そちらのほうに足を向けていただくというような機能も、中には必要なのかなということで考えてます。

ただ、それはあくまでもその機能のパーツパーツでありますので、結局そこを発信にもつながるんでしょうか。要は、ハートの部分として、そういうことが、市に、駅北の復興につながっていく、糸魚川市の子育てにつながっていくという、そういう軸の部分がちゃんと市民のほうに伝わらないと、ただ単に、そこに本が読めて、遊べる場所があつて、少し相談もできるというだけの機能で終わってしまわせてはいけないので、これからの、その部分に、そういう市の熱の部分、熱というか軸の部分を伝えるということは、今からでもちゃんと取り組んでまいりたいと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

「えんてらす」の場合は、この自由に使える交流スペースというのがあつて、これが結構な面積を占めてるんですが、いいんですよ。よく考えたと思います。塩尻市の職員が考えて、その運営も一生懸命やっていて、だから人が来るんですよ。

「えんてらす」の50万人到達日を当てよう企画アンケート調査のまとめが役に立ちます。資料を渡してあったと思います。ここに、糸魚川市の施設の完成イメージとなるとと思いますので、幾つかご紹介したいと思います。

木の温かみのある施設で、娘と行きやすいです。いつもお世話になり、ありがとうございます。気持ちよく使わせていただいています。2階の交流スペースの椅子、机が心地いい。新しい楽しい企画が多くてうれしいです。いつも若い世代がいて、明るい入りやすい施設だと思います。お世話になってありがたいです。小さい子がしやすい雰囲気、ありがたいです。通路の図書（みんなの本棚）が、立ち読みや借用も兼ね、何げに楽しく利用できてよい。スタッフ、職員の対応が、親切で気持ちよく、利用できて感謝していますなどなど、施設や職員さんへの市民からの感謝があふれていて、素晴らしい内容のアンケートです。

糸魚川市でも市民や団体と一緒に見学して、塩尻市のお話を聞いてきたらいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

運営方法につきましては、やはり市民を巻き込んだといったところが大切になってくると思っております。決して他人ごとでなく、自分ごとで考えるということ。また、支えられる側ではなくて、支える側にも回るといったことも、施設運営、継続性では重要な部分というふうにあります。

そういった中でも、今ほど塩尻市の事例がありましたが、こちらにつきましては、どういった施設のほうが、やはり実際に目にしていることが大事になっておりますので、そういった部分につきましては、視察等につきましては検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

塩尻市は、市民に喜んでいただく施設づくりのために、設計、運営、一生懸命考えるんですけど、まず運営は直営でやる。あまり指定管理をやってないそうですよ。そういった状況も聞いてもらいたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

塩尻市さんのほうでも、これまでの検討の過程の中でどういった運営方法があったのか。また運営方法の取捨選択についてどのような形で進めてきたのか。そういった部分も参考にしながら、どういう形で最終的に直営になったのかといった過程の部分につきましても大切かと思っております。視察をするとした際には、そういった部分につきましても確認をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

糸魚川の施設には、復興まちづくり計画に関わった多くの市民のアイデア、思い、費やした時間が反映されていくべきだと思います。市民のアイデアや思いが、捨てられてしまうのは惜しいです。駅北復興まちづくり市民会議で出された案、キッズファースト、それから、ブック・アンド・ランドリー、暮らしのシェアは、いずれも優れた市民のアイデアですが、これからでも検討しませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

本当ににぎわいとは何なのかという根本的なところから、子供を中心に高齢者が集えるというような、いろんな私どもにアイデア、ヒント、考え方を頂いた会議で、そこは本当に大事にしてまいります。今回のこの複合施設の中で、仮に収益施設は入れられなかったですけど、キッズファーストの部分、あとそこに点を落として、町なかに周回していくような、そういう魅力づくりの仕事というのは、この子育て支援の複合施設の仕事のほかにも、そういう市民会議の考え方を生かすような取組というのは、この子育て施設、複合施設の仕事と並走してやっていかなきゃいけない仕事ですけど、今現状は、この施設のほうの仕事のほうに今力を入れておるような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

力を入れるということは、市民に理解をされて喜ばれるものを造るということですよ。ただスケジュールどおり進めたいから聴かないよって話じゃないと思うんですよね。これら市民のアイデアを取り入れた計画とするためには、今の敷地では狭い。駐車場も必要です。

そこで、敷地をさらに広げるお考えはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

幾つかそういう声も頂いておるところでございます。

ただ、今、私どもが取得している部分というのは、今の計画にお示しした部分でございまして、これより広げるといって、宮田ビルの部分は、飛び地になって接しておりませんし、まだ他人の持ち物ということで、今のこの計画の、この施設の計画は不規則という形なんですけど、それがネックにならんような形で、これから進めていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

私の経験からいくと、変形敷地であまりいい建物できないと思いますよ。

それで、市民のアイデアが取り入れにくいということであれば、近隣住民のニーズの高いミニコンビニを、せめて計画地の一角に誘致する考えはありませんか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

このまんま今の計画の中には、どうしても取り込めませんでした。これを悪い意味に取らなくていただきたいんですけど、市が直営で運営をしていくというふうに決めた場合には、そこにもう収益性のある施設というのを検討する余地はないというふうな考え方でおります。

ただ、これから企業の参画をやっていく中で、仮にそういうような声が出てきたときには、当然商店街の皆様とは打合せをしないといけないんですけど、そういう提案があったときには、ありがたいお話ですが、今のところまだ私どもが、URさんの協力をいただいてヒアリングをした相手からは、そういうのは厳しいというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

市が話を聞いている方からそういう話があったことを理由に、いつまでかたくなに市民からの要望、地区のニーズを取り入れようとしないのか。

最後に申し上げたいことは、当たり前のことですが、工事発注を急ぐあまりに議会チェックを避けるような計画の決定は、禍根を必ず残します。市民とも双方向性の協議の場を経て、合意形成すべきです。次の選挙の争点となるかもしれません。市長のお考えを伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

選挙の争点に捉えていくつもりはございません。今まで進めてきておるこの計画については、今、職員、また関係者の皆様方と今詰めておる段階でございまして、その計画の中で、ぜひとも進めていただきたいという気持ちで捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

関係者と詰めるだけじゃなくて、まず議会、それから市民、これとちゃんとやっていただかないと、もっと柔軟に考えていただけませんか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は柔軟に考えてきているつもりでございます。ご承知のとおり、今までのこの事業を見ていただいてもお分かりのように、この事業については、非常に多くの皆様方のご意見を賜りながら、また多くの人から加わっていただきながら取り組んでいただいておりますので、やはり時期が来たら完成をしていく形に持っていきたいと思っております次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

質問の3、大糸線存続について、2回目の質問です。

J R等沿線自治体との話し合いがかみ合わない状況のまま時間が経過して、二、三年のうちに廃線ということもあるのでしょうか。市長として、今後の議論、政策をどのように進めるか。また、都市政策課は、市長の施策をどのように具体化していくお考えか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

順番的にちょっと私のほうから先にお答えをさせていただきます。

J Rとの主張のずれがある。ここは各社新聞の報道にあるとおりでございます。今、大糸線の振興部会のところでは、大糸線の活性化、利用促進、それと持続可能な方策を話し合う場として、会議というのが設定されております。J Rのほうは、同時並行で行っていきましょうよと。地元のほうは、まず活性化を先行、コロナでできなかった活性化を取り組んでいきましょうよということ、その部分のやらないといけないことはJ Rとは共有をしておるんですけど、その進め方のところ、かみ合っていない、ずれているというような印象が特にあるかと思えます。

ただ、このままお互い主張ばっかしていても、時間だけがそれこそ本当に過ぎて、貴重な時間が失われる。大糸線鉄道の活性化、利用促進には、J Rの協力というのはどうしても不可欠でありますので、その部分も意識しながら、市長答弁のとおり折り合い調整をつけていこうというふうに関後考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

大糸線につきましては、非常に今利用者が減少しておる状況の中において、以前から我々、この大糸線存続については、J R西日本に要望してまいってきたわけですが、しかしだんだん、やはり利用者だけ減少してくるという状況を見る中においては、やはり我々といましては、危機を感じておる次第でございます、その辺を松本以北の自治体は、やはり毎年1年に一度、J R

西日本金沢支社へ要望に行くんですが、その辺を肌で感じておるわけでありますので、少しでも、1人でもやはり多くの方々から大糸線に乗っていただいて、利用増を目指すことが、まずは地元のやるべき一番、一丁目一番地じゃないかなと思ってる次第でございます、それをこのやることによって、数が増えることによって、それをもって存続の要望だったり、また利便性の向上につなげていただけるような要望につなげていきたいと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

今後約1万人乗降客を増やすとの報道もありますが、この数字はどこから出てきたのか。乗降客1万人増の根拠は何か。1万人増えると、現行の平均通過人員がどのくらい増加すると試算しているか。年間1万に増えたところで、JRのいう平均通過人員2,000人には到底及ばないのですが、1万人増加することで、今後の議論にどう影響するとお考えですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

大糸線振興部会におきまして、松本から糸魚川までの行政だけでなく、各団体が取り組む事業として、今回、事業にそれぞれ目標値というものを定めて、それを集めたものが年間1万人弱、9,201名でございます。

ただ、議員ご指摘のように、これを1日の数字にすると、単純に365で終わってしまうと1日25人増える程度で、JRの求める2,000人ですとか、そこに関しては、あと国のいう1,000人、36万5,000人に対しては全然及ばない部分です。ただ何もやらんじゃなくて、こういう利用促進をやることで、1日100人当たりで低迷水平飛行の状態が、コロナで50人、やっと最近回復傾向という部分を、水平飛行から離陸傾向に上げるという、そういう姿をJRのほうにも見せないで、これから利用促進を一緒にやってみようという彼らにこっちを向いてももらえないので、イベントというふうに批判をされるケースも聞こえてくるのですが、まずはそういうところをきっかけにコロナ前の状態、新幹線の開業した当時の200人に近い状態という、そういう右肩上がりを示していこうというもので、今、今年の定めた皆さんからのお知恵を集めた集計が1万人というものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

資料のJRへの利用促進に対する質問の回答を見ると、ほとんどゼロ回答ですが、このような状況で、今後、市としてどのように利用促進を進めていくお考えですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

あえて資料に添付いたしました私どもの提案は、ほぼゼロ回答ということで、これはJR側のほうからいたしますと、多くの赤字、年平均6億3,000万の赤字、100円稼ぐのに4,295円を、そういう路線を、会社としてコストを切り詰めて安全を確保しながら何とか運営努力、運行努力をしてきているのに、今そういうところに根拠なしに、すれ違い施設を増やすとかそういう多額のコストを投入するような利用促進はできないというのがJRの趣旨でございます。

ただ、先ほどの繰り返しになりますけど、利用促進には、JRの協力がないとできませんので、まずは沿線団体、あと糸魚川市、それぞれ個別にできることをちゃんと確実にやっていって、先ほどの話ですが、利用促進をやればお客様が増えてくれるんだという姿をやはりJRと共有できるような状態というのを目指していると。そういう流れでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

大糸線応援隊の活用、今後の展開を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

今、大変多くの方から応援隊に入っていて、いろいろメッセージ寄せられております。中には、実際に乗り込んで自ら乗降調査をされて、それと南小谷との接続の関係性とかいろんな、私どもこれからのJRに要望していく際のヒントになるような、あと、私たちの調査活動につながるヒントになるような提案を頂いたかと思えますし、リゾート列車を入れてはどうかとか、そういう観光利用の促進のアイデア等もいろいろ頂いている状況でございます。

まず、応援隊の皆様向けには、これも応援隊同士の結束を深めるという意味で、今年度はちょっと夏休みの期間中になるかと思いますが、もう一度ファンミーティングを、今回は複数回、複数期間予定して、実際に駅の少し施設を構ったりするような、そういう作業にも関わっていただいたりして、より身近に感じて連帯を深めるような取組、あと、なかなか頂いたアイデアも、すぐに取り込めない状況のものがゼロ回答という部分が多いのですが、JRが少しでもこっち向いて、可能となった状態のときに切れ目のない利用促進をしていくためのご意見、アイデアとして、今私どもでストックをしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

活動の情報発信をどのようにされますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

応援隊の皆様には不定期なのですが、応援隊の皆様へのメールとして発信をしておると、地域おこし協力隊、これは、平日、毎日いろいろ配信をしております。その辺を組み合わせ、広く伝わる部分、深く伝わる部分というふうに情報発信をしていきたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

田原 実議員。

○18番（田原 実君）

終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、田原 実議員の質問が終わりました。

ここで暫時休憩いたします。

再開を11時30分といたします。

〈午前11時22分 休憩〉

〈午前11時30分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書ののっとり、1回目の質問をさせていただきます。

1、糸魚川市駅北地域に必要とされる施設整備について。